

25本の多様な映画をリアル、オンラインの両方で上映し延べ407名の方が参加

岡山映画祭実行委員会

活動の目的

シネコンや映画館で楽しめる映画、ミニシアターで楽しめる映画、そしてそれらの映画館では上映されない、それでいて大切な映画を映画祭で上映して、多様な映画文化を享受できるまちづくりを目的として活動してきました。また、映画はお金がかかる表現としてなかなか市民や個人が映画をつくるのが難しいメディアと言われてきました。しかし映像機材の進歩により誰もが映画をつくることのできる時代となっています。けれど、その作品を発表する機会は多くありません。岡山映画祭は自らの暮らす場所で創られる映画の上映発表の場を提供させていただくことで、岡山の映画作家の応援を行い小説や音楽のように自由で多様な映画表現ができるまちを目指します。そしてその多様性のなかに、あらたな可能性を見出していきます。私たちが豊かな人生をおくることができると自らが作り出していきます。

活動の内容及び経過

世界で最初の映画が上映されて100年目の1995年、映画祭のないまち岡山に市民が1万円づつ出し合って、岡山映画祭がスタートしました。そして、過去11回約250本の映画を上映、延べ18,000人の市民のみなさまに参加していただくことができました。そして、今回の2020年の岡山映画祭では①25本の多様な映画作品の上映②監督と市民との映画祭ならではの交流の場づくり③岡山発の作品を含めた「中短編映画の力」の特集上映④岡山映画祭の歴史上初めての海外監督のゲスト招聘などを「広くつながる！」のタイトルのもと実現を目指しました。しかし、コロナ禍のなかで日本中の映画祭が中止あるいはリモート上映のみになるなか、私たちも判断を迫られました。開催することを自己目的化するのではなく、安全を最大限に配慮しながら、今できることを探し、行っていこうと開催を決断しました。

活動の成果・効果

コロナ禍にもかかわらず駆けつけていただいた延べ400の観客の方々、上映料を減額して支援して下さった映画製作者や配給会社のみなさま、そして寄付や助成いただいた団体および市民の方々に支えられて無事に映画祭をやりとげることができたのが最大の成果です。また岡山映画祭では初めての3本の作品をオンライン上映（リアル上映も行う）ハイブリッド上映を行うことができました。そのおかげで自宅からでにくい方や、参加が難しい遠方の方々（沖縄含め）に参加いただけたことも大きな一歩でした。また県外ゲストとの交流はズームを活用、台湾のホアン・ヤー



感染対策を行った受付



中短編映画製作者リアルトーク



山崎監督・福田監督ズームトーク

リー監督の来日は実現しませんでした。やはりズームトークが実現。映画祭の上映作品「もう一つの明日」の孟皓監督が通訳をつとめる中、岡山の映画作家たちも加わった国際色豊かなクロージング映画交流が実現し、当初のタイトル「広くつながる！」につなげることができました。

今後の課題と問題点

コロナ禍で3密を避けるために完全事前予約指定席制として安全に最大限配慮した映画祭を行うことができました。一方で仕組みが複雑な部分もあり、スタッフの入れ替わりや事前説明が不十分によるお客さまにご迷惑をかける場面もありました。また、告知について、ゲストトークの終了時間も明記できればさらに観客の方の参加の利便性や集客につなげることができたこともあり反省点が残りました。また、観客の方への呼びかけをチラシやホームページだけでなく、どう広く伝えていくかは毎回の課題です。ただ、岡山発の映画を大切に上映していくことや前夜祭での制作発表などを通じて、岡山の映画関係者のつながりは厚くなってきており、そのことが今後の観客の広がりにつながればと希望しています。

- 代表者：小川孝雄 ●所在地：岡山市北区奉還町
- TEL：086-252-7606 ●E-MAIL：yx9y-ogw@asahi-net.or.jp
- 設立年：1994年 ●メンバー数：15名